

オフキャンパスに広がる留学生教育を考える

神戸大学 グローバル教育センター
留学生教育部門長 教授 河合 成雄

三井V-Netの皆さま方には、神戸大学国際教育総合センター(2016年の3月までは留学生センター)は、もっぱら国際交流関係の「一対一交流」でお世話になっており、厚く御礼申し上げます。留学生は日本語がある程度うまい場合でもなかなか大学を離れては日本人と接する機会が少なく、大変ありがたく存じます。



私自身もかつて海外へ留学した者ですが、大学での時間は授業や研究に限られていて意外と現地の人と接する時間が少ないと身を持って感じましたし、留学生は非常に狭い範囲の世界でしか生きていないとも言えるでしょう。それはネットの時代になっても変わらないものだと思います。私個人の体験からも学生を見ていると、留学は後々の人生の土台ができることであり、私というものが確立される大事なときの一つなのだと思います。他方、留学というものが、ある程度以上の時間や費用を費やすとなれば、ハイリスクハイリターンなチャレンジであって、尻込みする日本人がいるのもうなずけます。とは言え、留学は決して賭けではなく、しかるべき過程を踏めるようにすれば得るものが大きいはずで、人生での大きなイベントに神戸を選んでくれた留学生に最大限何を支援できるかということは我々の留学生教育での重要なポイントです。

現在、私は20年来留学生を受け入れる側に立ちながら、留学生を通じて国際交流に関わってきていますが、ありきたりのことながら、よりオープンな大学というスタンスで国際交流に臨みたいと改めて考えております。例えば、留学生の就職一つをとっても、地域との密接な関わりは重要です。留学は、留学中だけに完結したものではなく、留学前から留学後までの視野にたつて捉えられるようになってきています。その意味では海外での同窓会を中心としたネットワークづくりも当センターは重要視しています。海外で日本人と留学生の卒業生がともに拠点を形成しながら、大学で得たネットワークをさらに発展させていくというものです。日本人にとっては現地とのコンタクト、元留学生にとっては日本での経験を生かす機会を持ち続けることとなります。これらの事業は、ここ10年余りの新たな動きであり、留学生教育を広く捉えたときに当センターが果たすべき任務であると考えております。

さらにこれからはオンキャンパスでの教育だけでなく、オフキャンパスでの広い意味での教育を視野に入れながら活動していきたいと考えております。様々な国際交流プログラムはもちろんのこと、日本語教育一つをとっても、大学内だけでなく、地域での生活、将来日本で働くための準備などを想定して学外でも、主に学生を対象にして実施していければという展望を持っております。

ここで一つ大事なことは、この10年間で海外同窓会を立ち上げたり維持したりする上で学んだことではありますが、留学生の視点から必要なものを提供する一方で、留学生や卒業生の自主性任せにしておいては、より有効な仕組みが作れないということであって、仕掛けづくりやその維持の努力が欠かせないということです。そのような意味でも、三井V-Netの皆様と一緒に仕事ができる、留学生教育ができるということは、当センターにとっては非常にありがたいことなのです。

ぜひとも三井V-Netの皆様方におかれましては、今後とも留学生とのやりとりを楽しんでいただきながら、ご協力を賜うことができれば幸いです。また留学生に対しては、「一対一交流」等の良さを伝えて行き、結果として卒業生が第二の故郷に神戸を位置づけてくれるようになるならば言うことはありません。